

1. 件名：日本原燃株式会社のERC備付資料（COP資料）の合理化について

2. 日時：令和3年10月4日 15:00～17:10

3. 場所：原子力規制庁3階 緊対室打ち合わせエリア

4. 出席者

原子力規制庁 事故対処室

梶田事故対処専門官

（以下、テレビ会議システムによる出席）

原子力規制庁 事故対処室

金子室長

原子力規制庁 核燃料施設審査部門

古作企画調査官、大橋上席安全審査官、藤原安全審査官

日本原燃株式会社

安全・品質本部 安全推進部 部長 他5名

5. 要旨

日本原燃株式会社（以下「日本原燃」という。）から、ERC備付資料（COP資料）について、説明があった。

原子力規制庁から、以下を伝えた。

- ・COP資料が合計14枚となっており、やや多いという印象である。自由記述で工夫する等で状況が理解しやすいよう配慮しつつ、シートごとに更新時期等を整理し、運用時の枚数の省力化も検討してほしい。
- ・COP②でGA建屋に存在する機器だけでシートを作成しても電源関係での設備の状況は把握できない。重大事故等対処で用いる可搬型中型移送ポンプ等を含め、対策との関連でまとまりのあるシート構成とする必要がある。
- ・要素訓練を行い、COPの使用状況を検証することも必要である。シミュレーションした上でCOPの使用例を具体的に提示してほしい。

日本原燃から、本日の面談を踏まえ対応するとの回答があった。

6. その他

配布資料

資料1：COP資料の合理化に係る再検討結果について